

新潟地方気象台の1か月予報に基づく農作物の管理対策

平成31年3月15日
新潟県農林水産部

新潟地方気象台が3月14日に発表した「北陸地方1か月予報」によると、3月16日から4月15日までの平均気温は高い確率が60%です。

気温が高い状態が続き、農作物の生育が進むことが予想されるとともに、これからの季節は気温の急激な変化や降霜なども想定されるので、今後の気象変動に十分留意し、下記の管理対策の徹底をお願いします。

1 野菜

(1) トマト、きゅうり（半促成）

- ア 苗が軟弱徒長にならないよう、適切な温湿度・かん水管理を実施する。
- イ 苗の生育が進んだ場合は、定植が遅れないよう、ほ場準備を早める。
- ウ 하우스内の温度ムラ防止や湿度の均一化のために循環扇が設置されているハウスでは積極的に活用する。

(2) いちご

- ア ハウス内が高湿過湿にならないよう管理する。
- イ 土耕栽培では、ハウス内湿度を低下させるため、①かん水を控えること、②換気扇を活用すること、などを徹底する。

(3) すいか

- ア 接ぎ木直後の管理は、高温過湿とならないよう遮光や換気をこまめに行う。
- イ 接ぎ木後活着した苗は、多かん水による徒長に注意し、温床のスペースがある場合は、早めにずらしを行う。

(4) 葉菜類

- ア 生育が早まっているので、収穫遅れとならないよう、適期収穫に努める。
- イ 軟弱徒長や過剰に生育が早まらないよう、適切な温湿度・かん水管理を実施する。
- ウ ハウス半促成アスパラガスでは高温に注意し、ハウス内温度が30℃以上にならないよう喚気を行う。また、土壌が乾燥しやすいため適宜かん水を実施する。

(5) たまねぎ

- 雑草の生育が旺盛となることが予想されるため、除草剤散布を適宜行う。

(6) 病害虫対策

- ア いちごの灰色かび病やうどんこ病、ハダニやアブラムシ等の病害虫が多発傾向であるため、罹病した果実や葉を除去する等の耕種的防除を徹底するとともに、くん煙剤で防除する。
- イ 細菌性病害やべと病の発生が増えると予想されるため適宜防除を行う。
- ウ 病害を避けるため、①適切な温湿度・かん水管理を実施すること、②換気扇を活用すること、などを徹底する。

エ 害虫の越冬場所を根絶するため、①施設内外の除草の徹底、②施設内の営利作物以外の植物の撤去又は防虫ネットで隔離する等の耕種的防除を徹底する。

特に、アザミウマの発生が早いと見込まれるため、多発しないよう発生初期に防除する。

なお、その他の害虫も越冬率が高まり多発することが懸念されるため、注意し発生初期に防除する。

2 果樹

(1) 温暖な日が続く予想のため、発芽期、開花期が早まり、寒暖差による結実不良や凍霜害を受けやすい期間が長くなる。特に、うめの結実不良（低温による不受精）や、いちじく、かきで凍霜害発生危険が高まるため、今後の気象情報に注意する。

(2) 凍霜害対策

ア 防風網の設置、敷わらのほ場外除去及び防霜対策用燃焼資材の準備を確実に実施する。

イ いちじくでは樹列をマルチ等で包むなど、防寒対策をしっかりと行う。

(3) 休眠期防除

越冬病害虫の発生密度低減のため、薬剤による休眠期防除、罹病枝葉の除去及び粗皮削り等の耕種的防除を徹底する。

(4) 西洋なし「ル レクチエ」の落葉処理が未了の場合は速やかに実施する。

3 花き

(1) 露地球根類

萌芽時期が早まっていることから、適期を逃さずうね直しや除草剤散布等の春作業を実施する。

(2) 露地切り花類

中山間地域で融雪時期が早まると、秋植えのユリなどは出芽が早まって霜害等を受けやすくなるので、消雪・萌芽後は可能な限り保温資材などで被覆する。

(3) 施設花き

ハウス内が過湿及び高温にならないよう、天候に応じたこまめな喚起や循環扇による送風等を行う。

(4) 病虫害防除

ア 露地では生育が早まると霜害等を受けやすくなり、二次的な病害感染が懸念されるため、被害が見られたら早期防除に努める。

イ 施設内の病虫害発生に十分注意し、発生が見られたら初期防除を徹底する。

4 大麦

(1) 越冬中の積雪は少なく、気温も高く推移したことから麦の生育が早まっている。消雪直後の追肥が未実施の場合は早急に実施する。

(2) 雑草の生育も旺盛であるため、必要に応じて生育期に登録のある除草剤を遅れずに散布する。

(3) 排水不良ほ場では湿害や除草剤の薬害が懸念されるので、排水対策を徹底する。

(4) 麦の生育状況をよく確認し、茎立期や止葉抽出期の追肥を遅れずに実施する。

5 水稲

水稲については、平成31年3月13日付けで公表した「新潟米 春作業のポイント（臨時号）」を参考に、適切な管理をお願いします。